

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果（若桜町）

第8期介護保険事業計画に記載の内容			R3年度（年度末実績）			
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価 課題と対応策	
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(1) 健康づくりと介護予防の推進 ○若桜町の高齢者は75歳以上の後期高齢者の割合が高く、高齢化率も令和2年は49.0%と高く、今後もこの傾向が続くと予測される。 ○国民健康保険の特定健康診査の受診率は県内第2位で、健康に対する意識が高いと思われる。 ○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果では、一般高齢者は「うつ傾向」リスクが高く、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響が考えられる。また、要支援認定者は「運動器の機能低下」リスクが高くなっている。 ↓ ○運動器の機能向上や認知症予防に向けた健康づくりや介護予防につながる活動に参加できる機会を充実させ、健康に関する意識を高める必要がある。</p>	<p>(目標Ⅰ) 高齢者の生きがいや自立支援に向けた施策の推進 ①高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ③地域支援事業の充実 ④包括支援センターや生活支援・介護予防サービスの情報公開</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業の指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(R3)(R4)(R5) (実人数) 17 17 17 (延人数) 285 290 295 【リハビリ教室すずらん】(R3)(R4)(R5) (実人数) 5 5 5 (延人数) 92 92 92 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(R3)(R4)(R5) (実人数) 10 10 10 (延人数) 240 240 240 ③一般介護予防事業 【高齢者の料理講習会】(R3)(R4)(R5) (回数) 5 5 5 (延人数) 50 53 55 【健康教育】(R3)(R4)(R5) (回数) 22 23 25 (延人数) 380 385 390 【ひまわり会】(R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延人数) 140 150 160 【わくわく教室】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 1000 1050 1100 【あんしんホッとクラブ】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 400 600 800 ④生活支援サービス(配食等)(R3)(R4)(R5) (実人数) 107 107 107 (延人数) 3,283 3,283 3,283</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(実人数) 17人 (延人数) 289人 【リハビリ教室すずらん】(実人数) 5人 (延人数) 87人 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(実人数) 8人 (延人数) 148人 ③一般介護予防事業 【高齢者の料理講習会】(回数) 2回 (延人数) 16人 【健康教育】(回数) 10回 (延人数) 128人 【ひまわり会】(回数) 12回 (延人数) 111人 【わくわく教室】(回数) 49回 (延人数) 769人 【あんしんホッとクラブ】(回数) 45回 (延人数) 748人 ④生活支援サービス(配食等)(実人数) 78人 (延配食数) 2,967食</p>	○	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標について ①通所型サービスC コロナ禍ではあるが、感染対策を講じるため会場を変更するなど工夫して、実施できた。「体づくり教室」「リハビリ教室すずらん」共に、利用のニーズも高く、事業実施しセルフケアを行ったり、介護サービスにつながる事ができた。 ②訪問型サービスC 「いきいき訪問リハ」では、総合事業対象者の時期から専門職が介入し、セルフケア能力の向上や、介護サービス利用につながる事ができた。 ③一般介護予防事業 集落に向かい、要望に応じて行う、「高齢者の料理講習会」や「健康教室」では、コロナ禍で開催回数が大幅に減った。包括支援センター直営で行う「ひまわり会」、事業所に委託して実施する「わくわく教室」「あんしんホッとクラブ」では、コロナ禍のなか、会場を変更したり感染対策を講じ、事業の継続実施ができた。新規利用も増え、楽しく参加され、介護予防につながった。 ④生活支援サービス(配食等) 配食サービスを受けることで、安否確認につながり、急変者が発見できたケースもあった。近年、宅配弁当を利用する人も増えており、週1回の配食サービスの利用者数は横ばいの傾向である。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(2) 地域で支えあうための体制整備 ○令和2年9月末時点での高齢者のいる世帯は、全世帯の75.3%となっている。また独居高齢者の割合は上昇している。 ○高齢者の3割以上は、地域活動への参加への意向がある。 ○要介護者の家族構成は「単身世帯」が24.4%、「夫婦のみの世帯」が22.8%。主な介護者は「60～69歳」が最も多く、主な介護者の6割以上が60代以上である。 ↓ ○家族だけで介護することは困難と予測され、地域住民や事業所等が支援する体制の整備が必要。</p>	<p>(目標Ⅱ) 安心安全な暮らしを守るための支援体制 ①高齢者福祉事業 ②家族介護者に対する支援 ③安心安全な地域づくり ④感染症対策における体制整備</p>	<p>①緊急通報システム(R3)(R4)(R5) (登録者数) 21 22 23 ②お元気ですかコール(R3)(R4)(R5) (登録者数) 6 7 8 ③介護家族支援事業(R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延参加者数) 30 35 40</p>	<p>①緊急通報システム(登録者数) 18人 ②お元気ですかコール(登録者数) 11人 ③介護家族支援事業(回数) 12回 (延参加数) 14人</p>	△	<p>①緊急通報システム 新規利用者もあり、独居高齢者の安否確認につながった。 ②お元気ですかコール 新規利用者も増えてきており、独居高齢者の安否確認につながった。 ③介護家族支援事業 PRしているが、利用者が増えなかった。サービスに繋がっていない認知症の方が集まる場所になるように、参加動員のために個別に関わっているが、参加にはつながらなかった。 ④その他 2か月に1回実施する、事業者ネットワークにおいて、サービスに繋がっていない高齢者のリストを確認し、事業者間で情報共有した。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(3) 地域包括ケアシステムの強化に向けた取り組みの推進 ○最期を迎える時に希望する居場所は「自宅」が多い。 ○施設入所に関して要介護3以上の方は、7割以上が「検討していない」と回答している。 ↓ ○可能な限り住み慣れた地域で生活が続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の取り組みが必要。</p>	<p>(目標Ⅲ) 地域包括ケアシステムの深化・推進 ①若桜町らしい地域包括ケアシステムの深化・推進 ②在宅医療・介護連携の推進 ③認知症施策の推進 ④生活支援・介護予防サービスの体制整備 ⑤地域ケア会議の推進 ⑥居住安定施策との連携 ⑦人材確保及び資質向上</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 【いきいき出前教室】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 12 12 12 【サポーター養成】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 1 2 3 ②生活支援体制整備事業 【小地域サロン】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 27 28 29 【支え愛マップ】(R3)(R4)(R5) (更新箇所数) 12 12 12 ③地域ケア会議(R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 (課題集約数) 2 2 2</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(開催回数) 1回 (検討数) 3人 【いきいき出前教室】(開催箇所数) 0回 【サポーター養成】(開催回数) 1回 ②生活支援体制整備事業 【小地域ふれあいサロン】(開催箇所数) 24か所 【支え愛マップ】(更新箇所数) 12箇所 ③地域ケア会議(開催回数) 0回 (検討数) 0回 (課題集約数) 0回</p>	△	<p>①認知症施策 コロナ禍であり、集落に向いて実施する、「いきいき出前教室」「サポーター養成」は実施できなかった。サービスにつながっていない認知症の方にこまめに訪問し、サービスに繋がったケースもあった。 ②生活支援体制整備事業 コロナ禍ではあるが感染対策を講じながら「小地域ふれあいサロン」は工夫して実施された。「支え愛マップ」では、自治会長に必要性を理解してもらいながら、計画通りに実施できた。 ③地域ケア会議 コロナ禍であり開催できなかった。</p>
②給付適正化	○高齢化が進み、介護保険サービスの需要が高まると同時に、サービスの利用者も増加している。今後さらに持続可能な介護保険事業を運営するためには、介護給付費の適正化に取り組む、給付費の上昇を抑える必要がある。	①要介護認定の適正化	認定調査内容の全数確認を行う。	包括職員全員で認定調査内容の全数確認を行った。	◎	○変更または更新に係る認定調査の同行訪問も行いたい、業務多忙のためできていない。
②給付適正化		②ケアプラン点検	ケアプランを実施する。	ケアプラン点検を1居宅介護支援事業所を対象に、3件点検実施。	◎	○鳥取県社協(鳥取県介護支援専門員連絡協議会)のケアプラン点検支援事業を活用して実施した。 ○ケアプラン点検の経験が少ない職員のスキルアップが課題であり、ケアプラン点検を毎年実施し、経験を積む必要がある。
②給付適正化		③福祉用具購入及び住宅改修の点検	福祉用具購入及び住宅改修の点検を実施する。	福祉用具購入調査及び住宅改修点検を各1件実施。	◎	○点検ポイントを明確にし、さらなる点検数の増加に努める。
②給付適正化		④縦覧点検・医療情報との突合	縦覧点検・医療情報との突合を実施する。	国保連合会に委託して点検及び突合を実施。	◎	○今後も引き続き、国保連合会に委託して点検及び突合を実施する。
②給付適正化		⑤介護給付費通知	介護給付費通知回数目標 (R3)(R4)(R5) 実績 2 2 2	介護給付費通知を2回/年実施。	◎	○今後も引き続き、通知を行う(作成は国保連合会に委託)。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果（若桜町）

第8期介護保険事業計画に記載の内容			R4年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価 課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(1) 健康づくりと介護予防の推進 ○若桜町の高齢者は75歳以上の後期高齢者の割合が高く、高齢化率も令和2年は49.0%と高く、今後もこの傾向が続くと予測される。 ○国民健康保険の特定健康診査の受診率は県内第2位で、健康に対する意識が高いと思われる。 ○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果では、一般高齢者は「うつ傾向」リスクが高く、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響が考えられる。また、要支援認定者は「運動器の機能低下」リスクが高くなっている。 ↓ ○運動器の機能向上や認知症予防に向けた健康づくりや介護予防につながる活動に参加できる機会を充実させ、健康に関する意識を高める必要がある。</p>	<p>(目標Ⅰ) 高齢者の生きがいや自立支援に向けた施策の推進 ①高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ③地域支援事業の充実 ④包括支援センターや生活支援・介護予防サービスの情報公開</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業の指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(R3)(R4)(R5) (実人数) 17 17 17 (延人数) 285 290 295 【リハビリ教室すずらん】(R3)(R4)(R5) (実人数) 5 5 5 (延人数) 92 92 92 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(R3)(R4)(R5) (実人数) 10 10 10 (延人数) 240 240 240 ③一般介護予防事業 【高齢者の料理講習会】(R3)(R4)(R5) (回数) 5 5 5 (延人数) 50 53 55 【健康教育】(R3)(R4)(R5) (回数) 22 23 25 (延人数) 380 385 390 【ひまわり会】(R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延人数) 140 150 160 【わくわく教室】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 1000 1050 1100 【あんしんホッとクラブ】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 400 600 800 ④生活支援サービス(配食等)(R3)(R4)(R5) (実人数) 107 107 107 (延人数) 3,283 3,283 3,283</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(実人数) 17人 (延人数) 250人 【リハビリ教室すずらん】(実人数) 5人 (延人数) 95人 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(実人数) 8人 (延人数) 158人 ③一般介護予防事業 【高齢者の料理講習会】(回数) 2回 (延人数) 24人 【健康教育】(回数) 7回 (延人数) 92人 【ひまわり会】(回数) 11回 (延人数) 129人 【わくわく教室】(回数) 42回 (延人数) 536人 【あんしんホッとクラブ】(回数) 45回 (延人数) 813人 ④生活支援サービス(配食等)(実人数) 106人 (延配食数) 3,912食</p>	<p>○ (1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標について ①通所型サービスC コロナ禍ではあるが、感染対策として会場を変更するなど工夫して、実施した。若桜町は膝や腰痛などの関節疾患を抱える人が多くニーズが高い。また口腔や栄養改善のプログラムも入れ、運動機能のリハビリだけでなく、お口の健康や食生活においてセルフ能力の向上につながった。 ②訪問型サービスC 「いきいき訪問リハ」では、総合事業対象者の時期から専門職が介入しセルフケア能力の向上やリハビリの必要性の認識につながった。 ③一般介護予防事業 集落に向いて実施する「高齢者の料理講習会」や「健康教室」では、コロナ禍で開催回数が大幅に減った。包括支援センター直営で行う「ひまわり会」、事業所へ委託実施する「わくわく教室」「あんしんホッとクラブ」では、コロナ禍だが、会場を変更し感染対策を講じて事業の継続実施ができた。「あんしんホッとクラブ」は新規利用者が増え楽しく参加され介護予防につながった。しかし「わくわく教室」は、参加者の減少やスタッフ不足が原因で、次年度への継続が困難となった。 ④生活支援サービス(配食等) 配食を持参しても、本人が不在で安否確認ができないケースは、社協と包括支援センターが連携し本人の所在が確認できた。安否確認できない場合は、緊急時連絡先を社協が把握されていないことから、包括が関わることが多い。利用者の緊急連絡先の把握方法について検討が必要である。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(2) 地域で支えあうための体制整備 ○令和2年9月末時点での高齢者のいる世帯は、全世帯の75.3%となっている。また独居高齢者の割合は上昇している。 ○高齢者の3割以上は、地域活動への参加への意向がある。 ○要介護者の家族構成は「単身世帯」が24.4%、「夫婦のみの世帯」が22.8%。主な介護者は「60～69歳」が最も多く、主な介護者の6割以上が60代以上である。 ↓ ○家族だけで介護することは困難と予測され、地域住民や事業所等が支援する体制の整備が必要。</p>	<p>(目標Ⅱ) 安心安全な暮らしを守るための支援体制 ①高齢者福祉事業 ②家族介護者に対する支援 ③安心安全な地域づくり ④感染症対策における体制整備</p>	<p>①緊急通報システム (R3)(R4)(R5) (登録者数) 21 22 23 ②お元気ですかコール (R3)(R4)(R5) (登録者数) 6 7 8 ③介護家族支援事業 (R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延参加者数) 30 35 40</p>	<p>①緊急通報システム (登録者数) 13人 ②お元気ですかコール (登録者数) 9人 ③介護家族支援事業 (回数) 12回 (延参加数) 0人</p>	<p>△ ①緊急通報システム 新規利用者がなく利用者数は減少気味だが利用者にとっては安否確認につながった。 ②お元気ですかコール 独居高齢者の安否確認と、登録者の実態把握につながった。 ③介護家族支援事業 IP告知端末のみのPRに終わったため利用者がなかった。サービスに繋がっていない認知症の方が集えるよう個別に訪問し関わったが利用にはつながらなかった。 ④その他 2か月に1回実施する、事業者ネットワークにおいて、サービスに繋がっていない高齢者のリストを確認し、事業者間で情報共有した。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(3) 地域包括ケアシステムの強化に向けた取り組みの推進 ○最期を迎える時に希望する居場所は「自宅」が多い。 ○施設入所に関して要介護3以上の方は、7割以上が「検討していない」と回答している。 ↓ ○可能な限り住み慣れた地域で生活が続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の取り組みが必要。</p>	<p>(目標Ⅲ) 地域包括ケアシステムの深化・推進 ①若桜町らしい地域包括ケアシステムの深化・推進 ②在宅医療・介護連携の推進 ③認知症施策の推進 ④生活支援・介護予防サービスの体制整備 ⑤地域ケア会議の推進 ⑥居住安定施策との連携 ⑦人材確保及び資質向上</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 【いきいき出前教室】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 12 12 12 【サポーター養成】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 1 2 3 ②生活支援体制整備事業 【小地域サロン】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 27 28 29 【支え愛マップ】(R3)(R4)(R5) (更新箇所数) 12 12 12 ③地域ケア会議 (R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 (課題集約数) 2 2 2</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(開催回数) 2回 (検討数) 6人 【いきいき出前教室】(開催箇所数) 0回 【サポーター養成】(開催回数) 1回 17名参加 ②生活支援体制整備事業 【小地域ふれあいサロン】(開催箇所数) 22か所 【支え愛マップ】(更新箇所数) 10箇所 ③地域ケア会議 (開催回数) 2回 (検討数) 3回 (課題集約数) 2回</p>	<p>△ ①認知症施策 初期集中支援チームで検討した事例について個別にかかわり、内服が飲めるようになったり顔の見える関係づくりができた。サロンのリーダーを対象に「サポーター養成」を実施し、サロンへの展開につながった。 ②生活支援体制整備事業 コロナ禍だが、「小地域ふれあいサロン」は工夫して実施された。サロンリーダーにアンケートを実施。世帯の高齢化や感染症の対応困難の問題がありサロン廃止する所も出た。「支え愛マップ」では、社協、包括、防災担当に加え、役場集落担当も参加した。自治会長等が必要を働きかけ、徐々に更新する必要性が浸透してきている。 ③地域ケア会議 民生委員やリハビリ専門職、内科・歯科医師、薬剤師など専門職で会議し地域課題に①集落全体の高齢化、②サロン継続の難しさがあがった。町づくり推進協議会でサロンの継続について協議した。</p>
②給付適正化	<p>○高齢化が進み、介護保険サービスの需要が高まると同時に、サービスの利用者も増加している。今後さらに持続可能な介護保険事業を運営するためには、介護給付費の適正化に取り組む、給付費の上昇を抑える必要がある。</p>	<p>①要介護認定の適正化</p>	<p>認定調査内容の全数確認を行う。</p>	<p>包括職員全員で認定調査内容の全数確認を行った。</p>	<p>○ ○包括職員で認定調査全数目を通し、現状把握ができた。変更または更新の認定調査の同行も行いたい業務多忙のためできていない。</p>
②給付適正化		<p>②ケアプラン点検</p>	<p>ケアプランを実施する。</p>	<p>ケアプラン点検を1居宅介護支援事業所(メディコープとつとり)を対象に、2件点検実施。</p>	<p>○ ○鳥取県社協(鳥取県介護支援専門員連絡協議会)のケアプラン点検支援事業を活用してリモートで実施した。 ○ケアプラン点検の経験が少ない職員のスキルアップが課題であり、ケアプラン点検を毎年実施し、経験を積む必要がある。</p>
②給付適正化		<p>③福祉用具購入及び住宅改修の点検</p>	<p>福祉用具購入及び住宅改修の点検を実施する。</p>	<p>福祉用具購入調査及び住宅改修点検を各1件実施。</p>	<p>◎ ○点検ポイントを明確にし、さらなる点検数の増加に努める。</p>
②給付適正化		<p>④縦覧点検・医療情報との突合</p>	<p>縦覧点検・医療情報との突合を実施する。</p>	<p>国保連合会に委託して点検及び突合を実施。</p>	<p>◎ ○今後も引き続き、国保連合会に委託して点検及び突合を実施する。</p>
②給付適正化		<p>⑤介護給付費通知</p>	<p>介護給付費通知回数目標 (R3)(R4)(R5) 実績 2 2 2</p>	<p>介護給付費通知を2回/年実施。</p>	<p>◎ ○今後も引き続き、通知を行う(作成は国保連合会に委託)。</p>

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果（若桜町）

第8期介護保険事業計画に記載の内容			R5年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価 課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(1) 健康づくりと介護予防の推進 ○若桜町の高齢者は75歳以上の後期高齢者の割合が高く、高齢化率も令和2年は49.0%と高く、今後もこの傾向が続くと予測される。 ○国民健康保険の特定健康診査の受診率は県内第2位で、健康に対する意識が高いと思われる。 ○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果では、一般高齢者は「うつ傾向」リスクが高く、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響が考えられる。また、要支援認定者は「運動器の機能低下」リスクが高くなっている。 ↓ ○運動器の機能向上や認知症予防に向けた健康づくりや介護予防につながる活動に参加できる機会を充実させ、健康に関する意識を高める必要がある。</p>	<p>(目標Ⅰ) 高齢者の生きがいや自立支援に向けた施策の推進 ①高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ③地域支援事業の充実 ④包括支援センターや生活支援・介護予防サービスの情報公開</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業の指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(R3)(R4)(R5) (実人数) 17 17 17 (延人数) 285 290 295 【リハビリ教室すずらん】(R3)(R4)(R5) (実人数) 5 5 5 (延人数) 92 92 92 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(R3)(R4)(R5) (実人数) 10 10 10 (延人数) 240 240 240 ③一般介護予防事業 【高齢者の料理講習会】(R3)(R4)(R5) (回数) 5 5 5 (延人数) 50 53 55 【健康教育】(R3)(R4)(R5) (回数) 22 23 25 (延人数) 380 385 390 【ひまわり会】(R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延人数) 140 150 160 【わくわく教室】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 1000 1050 1100 【あんしんホットクラブ】(R3)(R4)(R5) (回数) 50 50 50 (延人数) 400 600 800 ④生活支援サービス(配食等)(R3)(R4)(R5) (実人数) 107 107 107 (延人数) 3,283 3,283 3,283</p>	<p>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標 ①通所型サービスC 【体づくり教室】(実人数) 17人 (延人数) 270人 【リハビリ教室すずらん】(実人数) 6人 (延人数) 92人 ②訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(実人数) 7人 (延人数) 132人 ③一般介護予防事業 【健康教育】(回数) 7回 (延人数) 101人 【すまいるサロン】(回数) 24回 (延人数) 413人 【あんしんホットクラブ】(回数) 48回 (延人数) 892人 ④生活支援サービス(配食等)(実人数) 72人 (延配食数) 3,622食</p>	<p>○ (1) 介護予防・日常生活支援総合事業に関する指標について ①通所型サービスC 「体づくり教室」では体力年齢の測定に加え、保健師による体組成計の測定を追加。運動への意識を高めるとともに、口腔や栄養改善プログラムにより各専門職の視点で高齢者のセルフケアを促している。年々口腔機能の低下がみられ、口腔と栄養とでコラボレーションしたコマを作るなど、実生活に結びつきやすいように工夫しながら事業を実施出来た。 「リハビリ教室すずらん」は運動に特化した事業になっており、満足度は高いがスペースが狭いため少人数での教室開催となっている。若桜町では膝や腰痛などの関節疾患があっても遠方への通院を断念する方が多く、リハビリのニーズが高い。リハビリを身近に感じてもらい、セルフケア能力の向上を目的に事業を実施出来た。 ②訪問型サービスC 「いきいき訪問リハ」では、総合事業対象者の時期から専門職が介入することで早期の介護予防、運動器機能の向上を図ることが出来ており、セルフケア能力の向上やリハビリの必要性の認識につながった。 ③一般介護予防事業 「高齢者の料理講習会」は一体化事業へ移行、介護予防の知識普及を図るための健康教育を随時実施した。閉じこもり予防教室「ひまわり会(直営)」、「わくわく教室(委託)」は人数の減少を理由に統廃合し、新たに「すまいるサロン(直営)」として事業を実施。「あんしんホットクラブ」は参加率が高く、定期的に外出するなど楽しく参加され介護予防につながっているが、メンバーの固定化と全体的な高齢化が目立ってきている。 ④生活支援サービス(配食等) コロナの長期化により調理ボランティアが減少、手作り弁当から業者弁当になり利用人数が減少。配食を持参しても、本人が不在で安否確認ができないケースは、社協と包括支援センターが連携し本人の所在を確認。緊急時連絡先を社協が把握しておらず、利用者の緊急連絡先の把握方法について検討が必要である。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(2) 地域で支えあうための体制整備 ○令和2年9月末時点での高齢者のいる世帯は、全世帯の75.3%となっている。また独居高齢者の割合は上昇している。 ○高齢者の3割以上は、地域活動への参加への意向がある。 ○要介護者の家族構成は「単身世帯」が24.4%、「夫婦のみの世帯」が22.8%。主な介護者は「60～69歳」が最も多く、主な介護者の6割以上が60代以上である。 ↓ ○家族だけで介護することは困難と予測され、地域住民や事業所等が支援する体制の整備が必要。</p>	<p>(目標Ⅱ) 安心安全な暮らしを守るための支援体制 ①高齢者福祉事業 ②家族介護者に対する支援 ③安心安全な地域づくり ④感染症対策における体制整備</p>	<p>①緊急通報システム(R3)(R4)(R5) (登録者数) 21 22 23 ②お元気ですかコール(R3)(R4)(R5) (登録者数) 6 7 8 ③介護家族支援事業(R3)(R4)(R5) (回数) 12 12 12 (延参加者数) 30 35 40</p>	<p>①緊急通報システム(登録者数) 12人 ②お元気ですかコール(登録者数) 6人 ③介護家族支援事業(回数) 10回 (延参加数) 51人</p>	<p>○ ①緊急通報システム 利用者数は減少傾向だが、利用者にとっては緊急時の安心感につながっている。 ②お元気ですかコール 独居高齢者の安否確認と、登録者の実態把握につながった。 ③介護家族支援事業 認知症当事者と介護者ともに直接参加を呼びかけ、利用につながった。レクリエーションやオレンジガーデニングプロジェクトに参加してもらうことで参加者の達成感にもつながった。 ④その他 2か月に1回実施する、事業者ネットワークにおいて、サービスに繋がっていない高齢者のリストを確認し、事業者間で情報共有した。</p>
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(3) 地域包括ケアシステムの強化に向けた取り組みの推進 ○最期を迎える時に希望する居場所は「自宅」が多い。 ○施設入所に関して要介護3以上の方は、7割以上が「検討していない」と回答している。 ↓ ○可能な限り住み慣れた地域で生活が続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の取り組みが必要。</p>	<p>(目標Ⅲ) 地域包括ケアシステムの深化・推進 ①若桜町らしい地域包括ケアシステムの深化・推進 ②在宅医療・介護連携の推進 ③認知症施策の推進 ④生活支援・介護予防サービスの体制整備 ⑤地域ケア会議の推進 ⑥居住安定施策との連携 ⑦人材確保及び資質向上</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 【いきいき出前教室】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 12 12 12 【サポーター養成】(R3)(R4)(R5) (開催回数) 1 2 3 ②生活支援体制整備事業 【小地域サロン】(R3)(R4)(R5) (開催箇所数) 27 28 29 【支え愛マップ】(R3)(R4)(R5) (更新箇所数) 12 12 12 ③地域ケア会議(R3)(R4)(R5) (開催回数) 3 3 3 (検討数) 6 6 6 (課題集約数) 2 2 2</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(開催回数) 2回 (検討数) 4人 【サポーター養成】(開催回数) 1回 (参加人数) 29名 ②生活支援体制整備事業 【小地域ふれあいサロン】(開催箇所数) 20か所 【支え愛マップ】(更新箇所数) 15箇所 ③地域ケア会議(開催回数) 2回 (検討数) 4回 (課題集約数) 3回</p>	<p>○ ①認知症施策 初期集中支援チームで検討した事例について個別にかかわり、顔の見える関係作りができた。役場、事業所職員を対象に「サポーター養成」を実施し、認知症への理解につながった。 ②生活支援体制整備事業 「小地域ふれあいサロン」では、1か所解散したが、1箇所新規開催となった。「支え愛マップ」では、社協、包括、防災担当、役場集落担当が参加。自治会長会等で必要性を働きかけ、徐々に更新する必要性が浸透してきている。 ③地域ケア会議 民生委員やリハビリ専門職、内科・歯科医師、薬剤師など専門職で会議し、個別事例を通して介護支援専門員のスキルアップと地域課題の抽出を行うことができた。</p>
②給付適正化	<p>○高齢化が進み、介護保険サービスの需要が高まると同時に、サービスの利用者も増加している。今後さらに持続可能な介護保険事業を運営するためには、介護給付費の適正化に取り組む、給付費の上昇を抑える必要がある。</p>	<p>①要介護認定の適正化</p>	<p>認定調査内容の全数確認を行う。</p>	<p>包括職員全員で認定調査内容の全数確認を行った。</p>	<p>○ ○包括職員で認定調査全数目を通し、現状把握ができた。</p>
②給付適正化		<p>②ケアプラン点検</p>	<p>ケアプランを実施する。</p>	<p>ケアプラン点検を1居宅介護支援事業所(若桜町社会福祉協議会)を対象に、1件点検実施。</p>	<p>○ ○鳥取県社協(鳥取県介護支援専門員連絡協議会)のケアプラン点検支援事業を活用してリモートで実施した。 ○ケアプラン点検の経験が少ない職員のスリルアップが課題であり、ケアプラン点検を毎年実施し、経験を積む必要がある。</p>
②給付適正化		<p>③福祉用具購入及び住宅改修の点検</p>	<p>福祉用具購入及び住宅改修の点検を実施する。</p>	<p>福祉用具購入調査及び住宅改修点検を各1件実施。</p>	<p>◎ ○点検ポイントを明確にし、さらなる点検数の増加に努める。</p>
②給付適正化		<p>④縦覧点検・医療情報との突合</p>	<p>縦覧点検・医療情報との突合を実施する。</p>	<p>国保連合会に委託して点検及び突合を実施。</p>	<p>◎ ○今後も引き続き、国保連合会に委託して点検及び突合を実施する。</p>
②給付適正化		<p>⑤介護給付費通知</p>	<p>介護給付費通知回数目標 (R3)(R4)(R5) 実績 2 2 2</p>	<p>介護給付費通知を2回/年実施。</p>	<p>◎ ○今後も引き続き、通知を行う(作成は国保連合会に委託)。</p>